

第1回実学臨床研究セミナー

実践現場で「学び続けること」の意義

～実践の質を高め、問題解決力を身につける

ためにできること～

資 料 集

日 時：2021年9月23日（木・祝）13:00～16:00

主 催：TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会

目 次

1. ご挨拶	TFU 実学臨床研究セミナー実行委員長 阿部一彦	1
2. プログラム		2
3. 基調講演「実践現場で『学び続けること』の意義を考える ～対人専門職として実践の質を高め、問題解決力を身につけるために必要なこと～」	大島巖氏（東北福祉大大学院担当副学長・教授）	8
4. 発題①「専門職大学院での『学びの経験』から」	小林紀代氏（多賀城市保健福祉部子育て支援課／ 宮城県社会福祉士会障害支援委員長）	19
5. 発題②「通学の研究大学院での『学びの経験』から」	水澤里志氏（社会福祉法人東北福祉会せんだんの里施設長）	25
6. 【資料①】第2回 TFU 実学臨床研究セミナー案内(チラシ)		33
7. 【資料②】TFU 実学臨床研究セミナー実行委員名簿		35

奥 付

ごあいさつ

この度、社会福祉法人東北福祉会、医療法人社団東北福祉会、および宮城県や東北地方のソーシャルワーカー職能団体に所属する東北福祉大学卒業生の皆さまに実行委員としてご協力を頂いて、第1回TFU実学臨床研究セミナーを開催する運びとなりました。

まず、本セミナーの開催にあたり、ご協力頂いた多くの皆さまのご尽力にこころから感謝申し上げます。

「行学一如」を建学の精神とする東北福祉大学(TFU)では、福祉系大学等を卒業したり、専門資格教育等を修了して実践現場で活躍する皆さんに対して、実践の質を継続して高め、問題解決力を身につけるための学びの機会を提供する取組みとして、月例の「実学臨床研究セミナー」を開催することにいたしました。

実践活動を継続する中で、「学び」を継続することは容易なことではありません。福祉サービスの第一線で活躍する皆さまにも実行委員に加わって頂き、このセミナーが実践の場の学びや「学び直し」にとって有益なものになるよう努めて行きたいと考えております。

オープニングに当たる第1回研究セミナーでは、実践現場で「学び続けること」の意義を、東北福祉大学を卒業されたお二人の実践家の「学びの経験」も伺いながら考えたいと思います。またこの研究セミナーの趣旨や、これからのこのセミナーの構想についても、皆さんと共に語り合いたいと考えています。

福祉現場など実践の場のイマを見つめ、これから求められる対人専門職人財の育成や成長、キャリア形成を考える機会になれば幸いです。

このセミナーが、参加された皆さまにとって有意義なものになることを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

2021年9月23日

TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会
委員長 阿部 一彦
(東北福祉大学総合福祉学部学部長・教授)

プログラム

【趣旨】 本年の 7 月に日本ソーシャルワーク学会の第 37 回大会がオンラインにて開催された。大会テーマこんにち家族や地域社会が変化し多様化する中で、人々の幸せやより豊かな生活を願い、複雑化する支援ニーズに向き合う対人援助の専門職の皆さんは、絶えず新しい知識を身に付け、成長し、新しく生じる問題に対応する力量を身に付けることが求められています。

「行学一如」を建学の精神とする東北福祉大学（TFU）では、この度、福祉系大学等を卒業したり、専門資格教育等を修了して実践現場で活躍する皆さんに対して、実践の質を継続して高め、問題解決力を身につけるための学びの機会を提供する取組み、月例の「実学臨床研究セミナー」を開催することにいたしました。

オープニングに当たる第 1 回研究セミナーでは、実践現場で「学び続けること」の意義を東北福祉大を卒業されたお二人の実践家の「学びの経験」も伺いながら考えたいと思います。またこの研究セミナーの趣旨やこれからのこのセミナーの構想についても皆さんと共に語り合いたいと考えています。

福祉現場など実践の場のイマを見つめ、これから求められる対人専門職人財の育成や成長、キャリア形成を考える機会になれば幸いです。

【開催方法】 オンライン開催

【内容】

- 13:00 開会挨拶 実行委員長・阿部一彦（東北福祉大学総合福祉学部学部長・教授）
- 13:10 基調講演 大島巖氏（東北福祉大大学院担当副学長・教授）
演題「実践現場で『学び続けること』の意義を考える～対人専門職として
実践の質を高め、問題解決力を身につけるために必要なこと～」
- 13:40 発題①「専門職大学院での『学びの経験』から」
小林紀代氏（多賀城市保健福祉部子育て支援課／
宮城県社会福祉士会障害支援委員長）
発題②：「通学の研究大学院での『学びの経験』から」
水澤里志氏（社会福祉法人東北福祉会せんだんの里施設長）
- 14:50 休憩
- 15:00 発題者との対談
コーディネータ（竹之内章代氏：東北福祉大学総合福祉学部准教授）
- 16:00 総合討論：今後の研究セミナーについて、期待すること、要望など
- 16:30 閉会挨拶

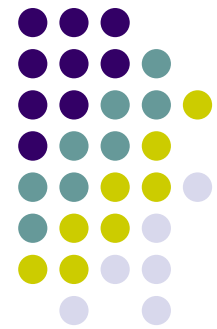
第1回TFU実学臨床研究セミナー【基調講演】

実践現場で「学び続けること」の意義

～実践の質を高め、問題解決力を身につけるためにできること～

2021.9.23

東北福祉大学副学長・教授
大島 巖



なぜ実践現場で「学び続ける」のか

- 新しい制度・サービス、支援方法、これまでと異なる利用者のニーズへの対応にキャッチアップするため
- 転職や配属変更、職務上の役割の変化などで、これまでと異なる知識・技術が求められるため
- 昇格試験・審査やキャリア段位制度などがあり、昇進するためには必要・不可欠だから
- 支援やサービスの質を高めるため、より良い支援のため
- モヤモヤ体験、「おやっ」体験
- いまの仕事は自分にとって価値あるもので、自分は社会に役立っているのかを実感するため
- その他、テーマへの関心、学問への関心などいろいろ

モヤモヤ体験、「おやっ」体験

- 実践の中で感じるモヤモヤした思い、違和感・疑問
- 「おやっ」どうしたのだろう、「いつもと違うのはなぜ」「何が起こったのか」「違いは何？」などという実践上の問い
 - ✦ 障害者生活訓練事業所において、「訓練」のための一定の体系化された支援モデルがない。エビデンスのある「生活技能訓練(SST)」を、体系的に取り入れることができないか？
 - ✦ 小規模多機能型居宅介護事業は、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける有力な取組み。でも、この事業が広まらないのはなぜなのか？
 - ✦ 医療ソーシャルワーカーの退院調整に伴う苦悩・葛藤。対処する実践上の価値・倫理があるのでは。それはどのようなもので、実践を支える価値や倫理になっているのか
- 実践上の問いは、研究上の問いになる。実践における支援の質を高めるには、その問いに答えることが重要

今日の社会課題(高齢者領域)とその対応

- 地域包括ケアシステムの実現と実装
 - ✦ 重度の障害があり要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることが、目指される「はず」
 - ✦ 小規模多機能型居宅介護等の小規模ケアの適切な実現・実装？
- 「閉じこもり」を続ける人の日中活動の開発は？、社会的孤立、孤独死などの防止の取組みは？
- 高齢者虐待防止、家族介護者の健康障害、介護負担軽減
 - ✦ 老老介護、老障介護、8050問題、ヤングケアラーへの対応
 - ✦ 体系的な家族支援、家族アセスメントが行われているのか？
- 累犯高齢者、ホームレス高齢者、高齢者の貧困と居住環境の困難への対応は進んでいるか？

⇒これら社会課題解決への有効な取組みが本格的には検討されていない。満たされないニーズが幅広く存在する。高齢者領域ですら「制度の狭間」問題がさまざまに発生

実践の質を高め、問題解決力を身につけるための学びはどこで？

- 職場の上司・先輩・同僚に相談する
 - ⇒⇒メンター制度、プリセプター制度、などに発展
 - 「学習する組織」の実現へ
- 職場内外のスーパービジョン制度の活用
- 職場・法人の体系的な研修システムを活用
- 職能団体（社会福祉士会など）の研修制度の活用
- 認定社会福祉士制度、認定介護福祉士制度、など
 - 職能団体が実施すると共に、職場や福祉系大学等（大学院）と連携しながら研修を実施する
- 大学院の公開講座（スキルアップ講座等）に参加する
- 大学院（含・通信制・夜間週末開講の通学制）に通う
- 実践研究系の学会に参加する
- 各種のセミナーに参加する（含・オンライン）

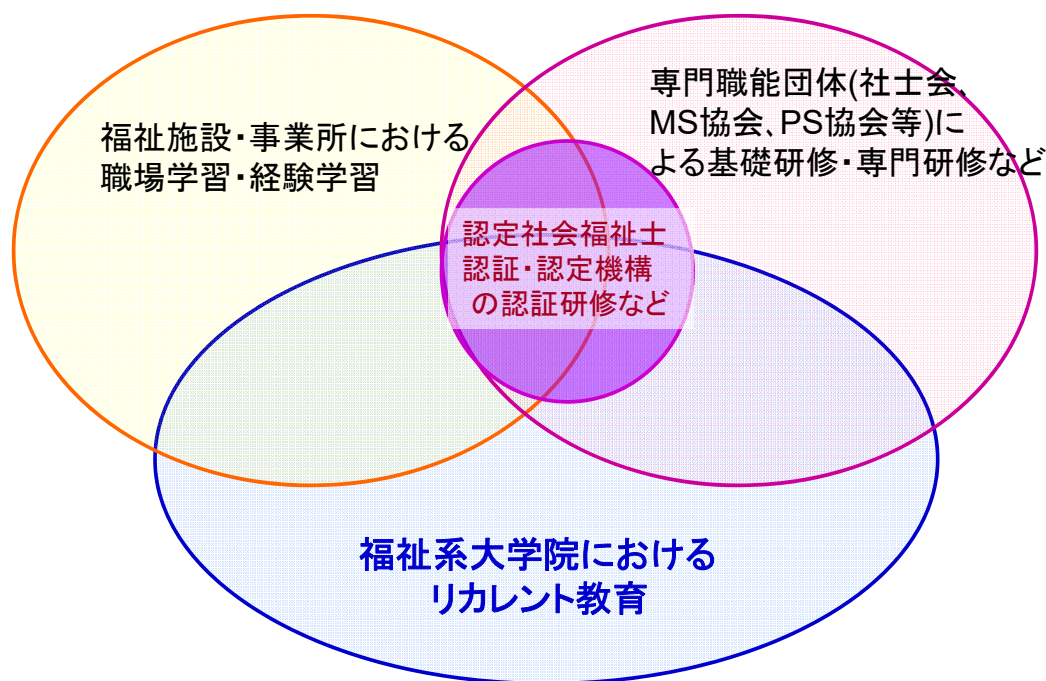


図 福祉人材の生涯キャリア形成・開発を支援する組織と実践家支援

認定社会福祉士・認定上級社会福祉士



■ 認定社会福祉士とは

社会福祉士及び介護福祉士法の定義に定める相談援助を行う者であって、所属組織を中心にした分野における福祉課題に対し、倫理綱領に基づき高度な専門知識と熟練した技術を用いて個別支援、他職種連携及び地域福祉の増進を行うことができる能力を有することを認められた者をいう

■ 認定上級社会福祉士とは

社会福祉士及び介護福祉士法の定義に定める相談援助を行う者であって、福祉についての高度な知識と卓越した技術を用いて、倫理綱領に基づく高い倫理観をもって個別支援、連携・調整及び地域福祉の増進等に関して質の高い業務を実践するとともに、人材育成において他の社会福祉士に対する指導的役割を果たし、かつ実践の科学化を行うことができる能力を有することを認められた者をいう

■ 2011年 認定社会福祉士認証・認定機構設置

■ 東北福祉大学大学院では、今年度(2021年度)から取組みを開始

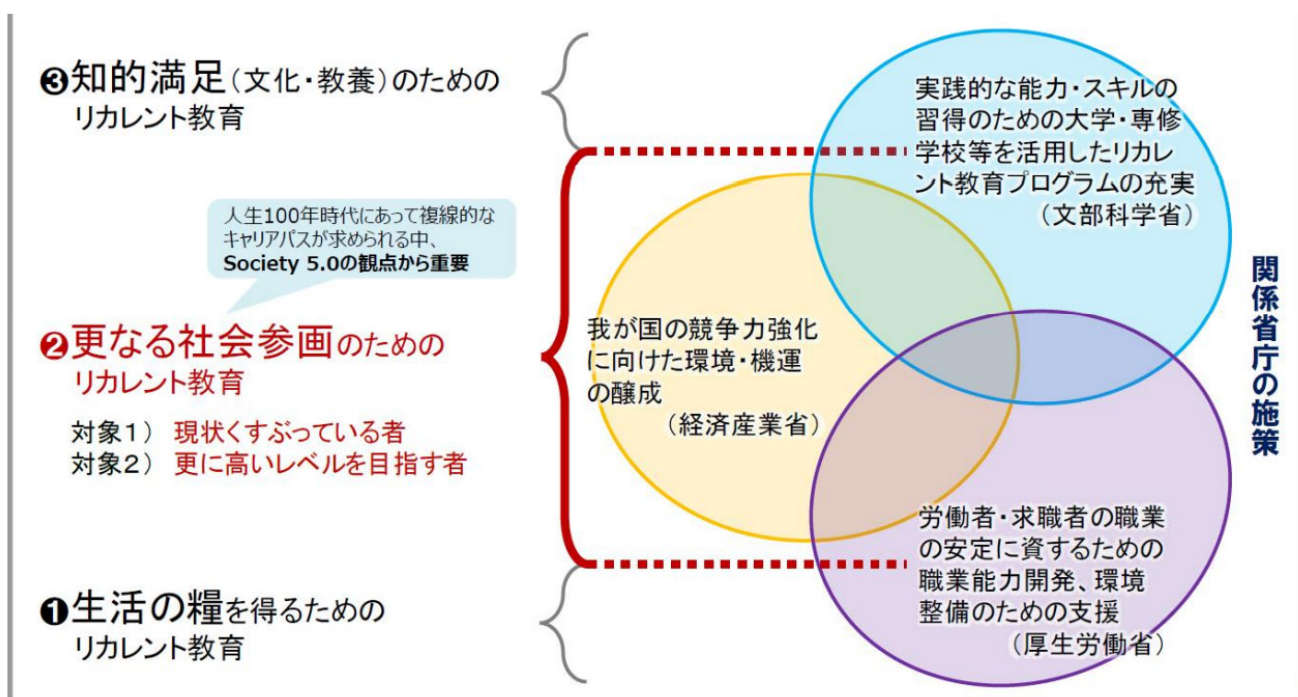
役 割

認定社会福祉士の役割	認定上級社会福祉士の役割
1. 複数の課題のあるケースの対応を担当する。	1. 複数の課題のあるケースについての指導・スーパービジョンを行う。
2. 職場内でリーダーシップをとる。実習指導など人材育成において指導的役割を担う。	2. 財務管理、人事管理、苦情・リスクマネジメントなどの組織管理を理解し、組織のシステムづくり、変革に取り組む。
3. 地域や外部機関との対応窓口となる（窓口として緊急対応、苦情対応などに関わる。）	3. 地域の関連機関の中核となり、連携のシステム作り、地域の福祉政策形成に働きかける。
4. 関連分野の知識をもって、他職種と連携する。職場内でのコーディネートを行う。組織外に対して自分の立場から発言ができる。	4. 科学的根拠に基づく実践の指導・推進を行う。

キャリア開発と「学び続けること」

- 「キャリア開発(Career Development)」とは、個人の職業経歴としての「キャリア」をある方向に導くこと(武石、2016)
 - ✦組織にとって個人の能力向上等により人材の価値を高める
 - ✦個人にとっては自分にとって望ましい職業経験を積むプロセス
 - ✦「人材開発」に対して、個人の側面を重視。働く個人にとって、満足感・達成感が味わえる、納得感を実感できる方向に自身の専門性が向上し仕事の幅が拡大し、人間的にも成長することを重視
- 「キャリア」の定義(Hall, 1976; 金井, 2002)
 - ✦キャリアとは、あるひとの生涯にわたる期間における、仕事関連の諸経験や諸活動と結び付いた態度や行動における個人的に知覚された連続である
- キャリア自律: 働く個人が自身のキャリアを主体的・自律的に向き合い進むべき方向を決めること(武石、2016)
- 実践現場で「学び続けること」は、個人のキャリア開発、キャリア自律の基盤として、自身のキャリアの専門知識・技術・価値を高める方向で進められる

リカレント教育の考え方



(出典)総合科学技術・イノベーション会議基本計画専門調査会(第9回)R2.10.16資料

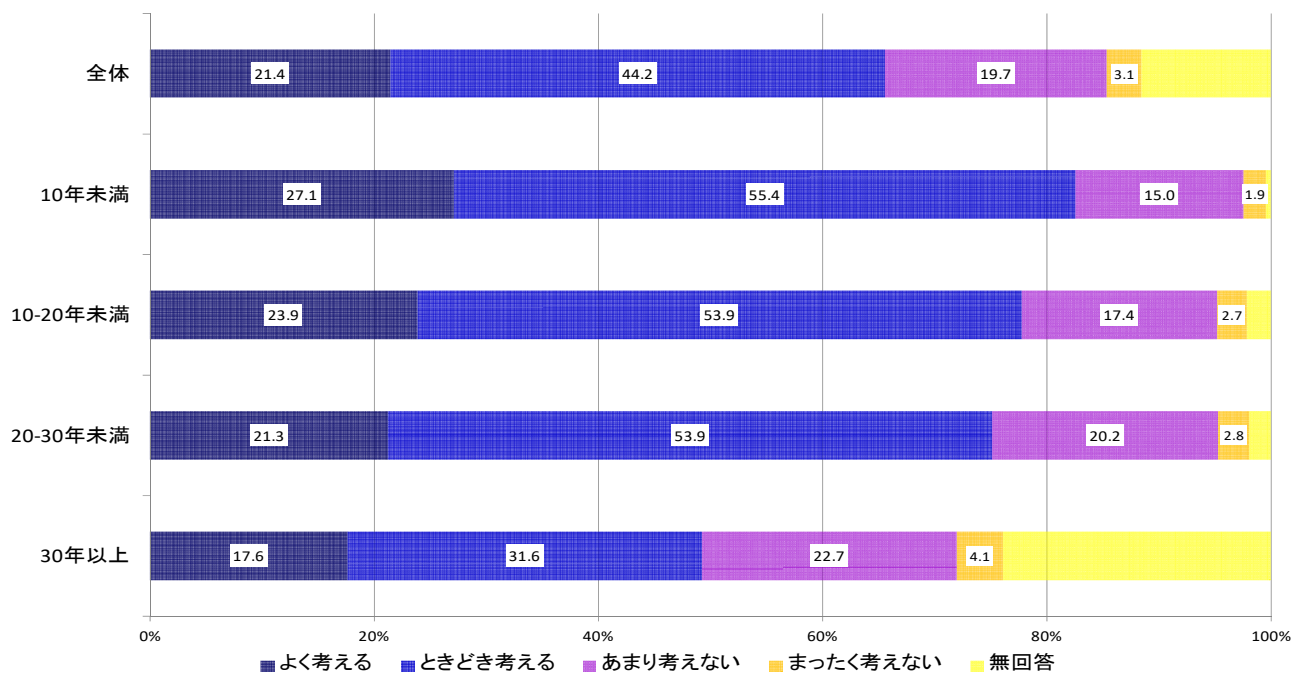


図 自分のキャリアをより良いものにしようと考えたことがあるか

注: 日本社会事業大学卒業生のキャリア形成と福祉系大学の役割に関する調査研究
 (2011年度日社大学内共同研究(主任研究者:大島巖))。学部卒業生(同窓会名簿より)
 対象4835人、回収2160人(回収率44.7%)、大島ら(2014)より

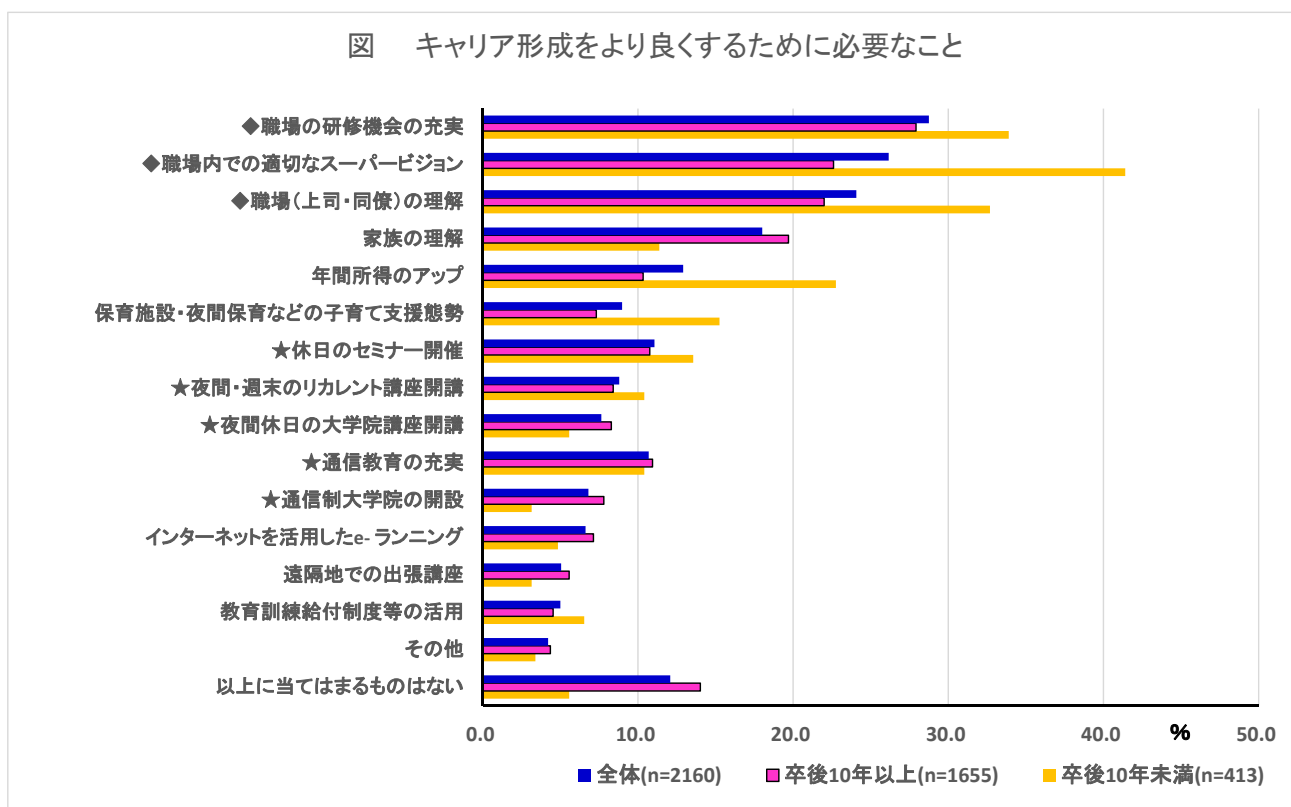


図 大学が提供するキャリア形成プログラムの中で関心のある取り組み

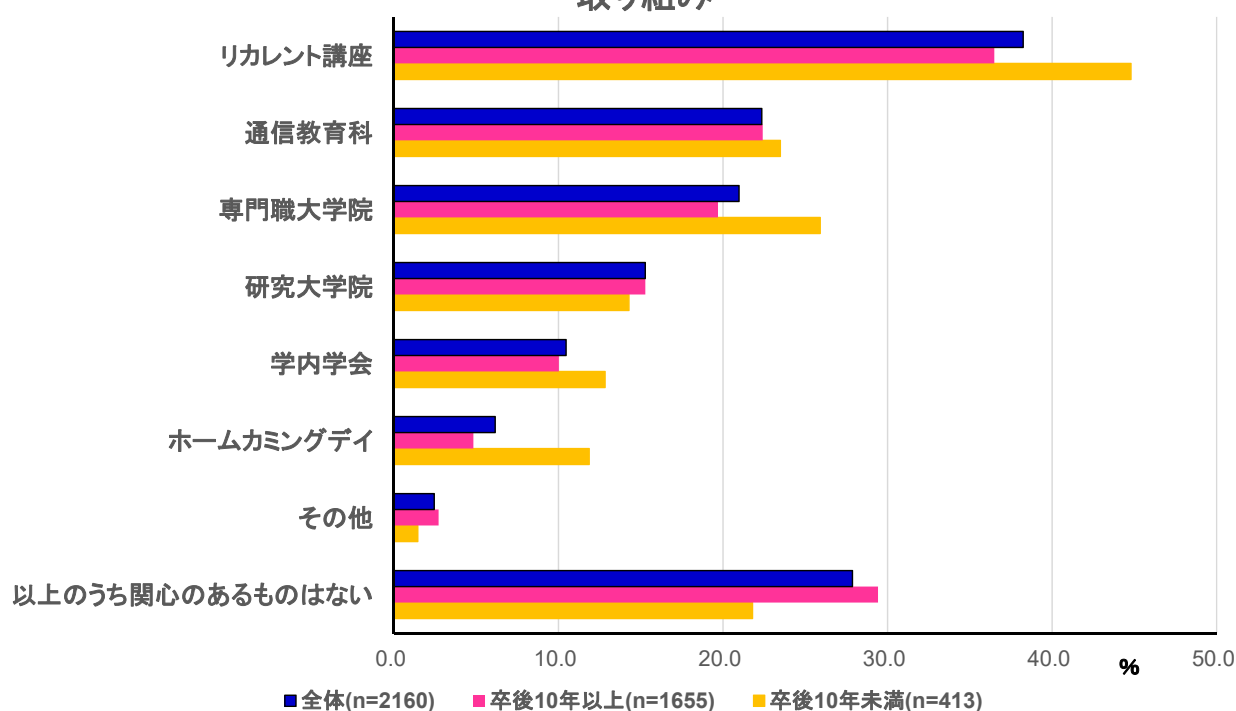
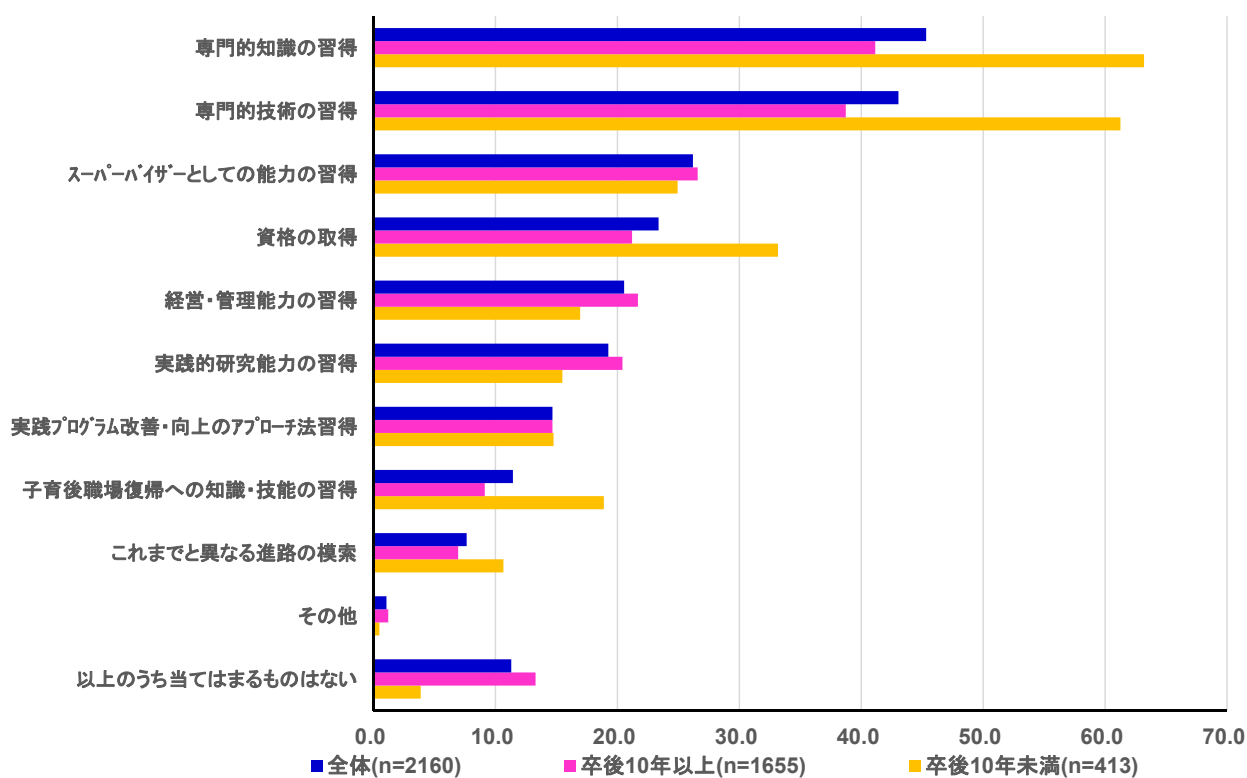


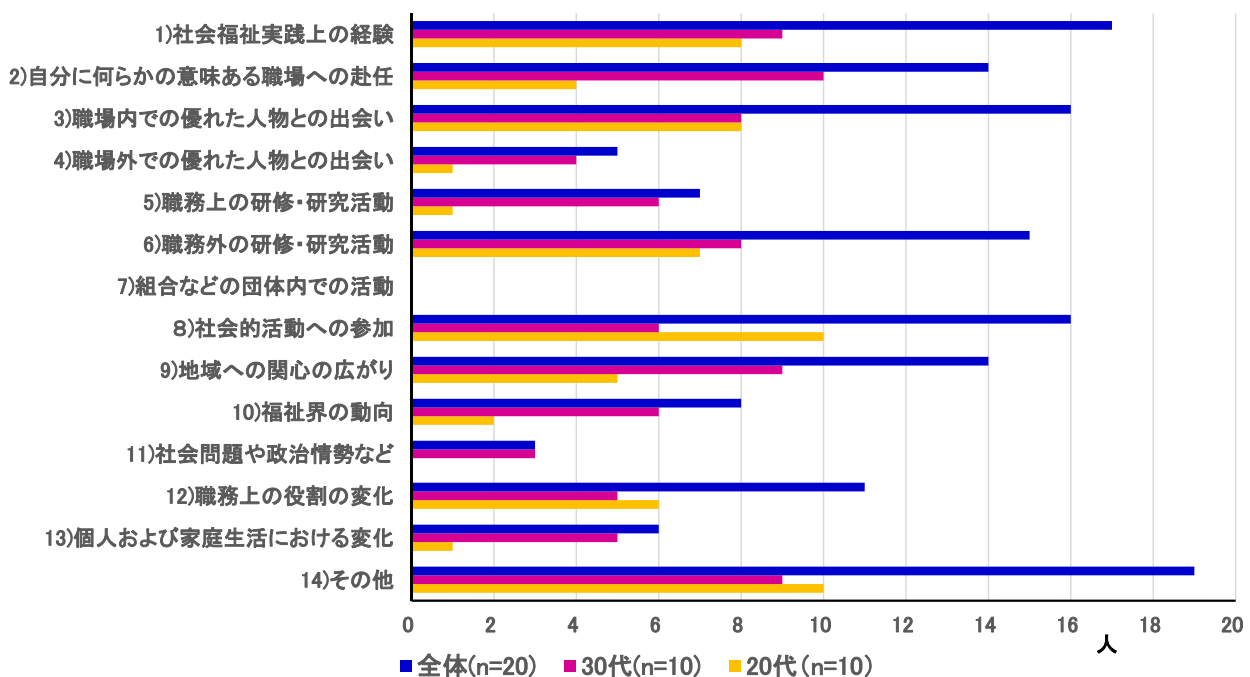
図 卒業生キャリア形成の取組みで特に関心あるもの



なぜ実践現場で「学び続ける」のか

- 新しい制度・サービス、支援方法、これまでと異なる利用者のニーズへの対応にキャッチアップするため
- 転職や配属変更、職務上の役割の変化などで、これまでと異なる知識・技術が求められるため
- 昇格試験・審査やキャリア段位制度などがあり、昇進するためには必要・不可欠だから
- 支援やサービスの質を高めるため、より良い支援のため
- モヤモヤ体験、「おやつ」体験⇒支援の質を高める実践研究
- いまの仕事は自分にとって価値あるもので、自分は社会に役立っているのかを実感するため
- その他、いろいろ

図 20代・30代ソーシャルワーカーの成長のきっかけ



保正ら(2006) キャリアを紡ぐソーシャルワーカー
～20代・30代の生活誌と職業像～. 筒井書房より

大学院を活用して「学ぶ」こと

- 他の「学ぶ機会」と比較してそれなりに大きな決断。人生の節目、キャリアの節目になりうる
- **自身のキャリアデザイン**を十分に行っての決断が必要
- 節目の**キャリアデザイン**を導くのは、**夢や大きな方向付け、仕事に対する志、精神性(spirituality)**(金井、2002)。
- ただし、通信教育部などでの学びや、長期履修・早期履修を利用して、パートタイム大学院生になる場合は、キャリアの節目になる度合いが少ないかも知れない
 - ✦ **長期履修**: 2年間の履修年限を3年間等に延長して履修
 - ✦ **早期履修**: 科目等履修によって事前に履修した単位を、入学時に単位認定(30単位中10単位など)して、入学後の修学の負担を軽減する。**キャリアの節目の試行期間?【本学では導入を検討中】**
- キャリアの節目として大学院を選ぶ理由、「きっかけ」?
 - ✦ **モヤモヤ体験、違和感・疑問、不条理への怒り**など
 - ✦ 研究セミナー等での出会い、優れた人材との交流など
 - ✦ 一方で**「新しいタイプの優れた福祉人材」への社会的期待**

今日の社会課題(高齢者領域)とその対応

- **地域包括ケアシステムの実現と実装**
 - ✦ 重度の障害があり要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることが、**目指される「はず」**
 - ✦ 小規模多機能型居宅介護等の小規模ケアの適切な実現・実装?
- **「閉じこもり」を続ける人の日中活動の開発は?、社会的孤立、孤独死などの防止の取組みは?**
- **高齢者虐待防止、家族介護者の健康障害、介護負担軽減**
 - ✦ 老老介護、老障介護、8050問題、ヤングケアラーへの対応
 - ✦ 体系的な家族支援が提供されているか?
- **累犯高齢者、ホームレス高齢者、高齢者の貧困と居住環境の困難への対応は進んでいるか?**

⇒これら**社会課題解決への有効な取組み**が本格的には検討されない。**満たされないニーズ**。高齢者領域でも**「制度の狭間」問題の発生**

今日の社会課題とその対応(2)

■ 地域包括ケアシステムの開発と変革

- ✦ 重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続ける

■ 生活困窮者の自立支援を進める支援環境の開発と変革

■ 精神障害のある長期入院者の脱施設化、地域移行・定着に向けた支援環境の開発と変革

■ ひきこもりを続ける人の日中活動の開発、社会的役割の獲得の課題への支援環境の開発と変革

■ 養護に欠ける子ども達の家庭養護を推進する支援環境の開発と変革、など

⇒これら社会課題解決に有効な支援環境開発を「効果モデル」の《設計・開発、形成・改善、実装》の観点から追求する必要

福祉人材育成に関連する新しい福祉政策の動向と、人材育成のあり方への示唆

- 厚生労働省(2015)「新福祉ビジョン」は、新しい地域包括支援体制を担う人材、**コーディネート人材**は、「複合的な課題に対して、切れ目ない包括的な支援が一貫して行われるよう、支援内容のマネジメントを行い、「複合化・困難化した課題に対し(中略)地域の実情に応じて、分野横断的に福祉サービスを提供」できることを期待

- 次の資質・能力にも言及：①強化された相談支援機関を中心に地域ネットワークを構築、②関係機関に積極的に働きかけ、総合調整、③様々なニーズに対して必要な社会資源を創造・開発、④個別の取組の積み重ねを大きな潮流として地域を変える、⑤包括的な受け止めからアセスメント、コーディネート、調整、社会資源の開発まで地域のシステムとして具体化する、⑥先駆的な取組を分析・検証し、好事例を全国に提示

- さらに次の人材の必要性も示唆：(コーディネート人材とは別に)社会福祉法人の経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明化向上、財務規律の強化を担う**マネジメント能力のある人材**、サービスの効果性・効率性を向上させ**生産性を高めることができる人材**

ソーシャルワークのグローバル定義

- ソーシャルワークは、**社会変革**と**社会開発**、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、**実践に基づいた専門職であり学問**である
- 社会正義、人権、集団的責任、および**多様性尊重**の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす
- ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学、および**地域・民族固有の知**を基盤として、ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、**人々やさまざまな構造に働きかける**

(2014年7月メルボルン、IFSW & IASSW)

日本ソーシャルワーク学会第32回大会コンセプト(2015年7月)

変革:ミクロからマクロへの戦略

- ソーシャルワーク(SW)実践では、ミクロで積み上げた実践をメゾ・マクロ実践、さらには政策へと反映しようとする不断の努力が目ざされる
- ソーシャルワーカー(SWr)は実践に根ざした制度・施策の構築、**エビデンスに基づく科学的な実践**を行い、当事者にとって、さらには社会にとっても有効な支援環境を創出、社会に発信することが必要
- **根拠にもとづく政策・施策**を積み上げること、それは**つながりと分かち合いを進める社会の仕組みを構築**すること
- そのアプローチは、**実践的で戦略的な根拠にもとづくマクロ実践SW**であり、**つながりと分かち合いのマクロ実践SW**
- そのようなソーシャルワークのあり方を、**プログラム開発と評価の手法を用いて**問うていくことができるのではないか

実践の質を高め、問題解決力を身につけるために 福祉系大学ができること

- 新たな社会課題、解決困難な問題(制度の狭間問題など)に対する課題解決を志向する人材に対する支援
- 当事者ニーズに基づく問題解決に向けて、ソーシャルワーク実践力の向上
- SWスーパービジョンのより良いロールモデルをつくる、様々な場面で福祉人材育成に関与・貢献
- 当事者ニーズの解決に資する効果的なサービスの提供、マネジメントを行う
- 実践研究力の向上⇒効果的実践モデルを開発、改善、実装する方法の習得(プログラム開発と評価)、など

生涯キャリア形成教育・継続教育における 福祉系大学院教育の位置と役割

- 社会から期待される、力量ある福祉人材を育成するための生涯キャリア形成教育は、福祉系大学院のみの役割ではない。福祉職能団体や福祉サービス提供団体における役割も大きい
- 福祉系大学院における学びは、福祉職能団体や福祉サービス提供団体における教育機会の提供に比較して年限が限られており、その教育期間も短い(2年、3年など)
- 大学院における学びが年限が限られていることを踏まえながら、福祉系大学院の「強み」をより十分に発揮する教育を提供する必要
 - ✦①福祉実践分野と社会福祉制度・政策分野を架橋する科目の体系的な教育、さらにはマクロ実践ソーシャルワークを含む科学的な研究方法論の教育
 - ✦②職能団体・福祉サービス提供団体との連携による生涯教育・実践研究の地域拠点となること

(日本社会福祉教育学校連盟(2017)社会福祉系大学院におけるカリキュラムと教育システムのガイドライン)

福祉系大学院教育において新たに 考慮すべき科目・教育内容

- 1. 福祉実践分野と社会福祉制度・政策分野を架橋する科目の設定・位置づけ、教育内容
 - ✦ A群(共通基礎科目)である①社会福祉原論、②ソーシャルワーク(SW)論、③社会福祉理論・学説史研究、④SWリサーチ法は、**実践と制度・政策を架橋する位置づけを明確**にし、教育内容、教育方法を発展させ、共有化する
 - ✦ B群(レベル別科目):特に**メゾ領域の実践課題である地域福祉論等を重視**、および分野論科目での位置づけ
- 2. マクロ実践SWに関わる研究方法論の科目・教育内容
 - ✦ **架橋するための基盤的科目**としてその位置づけを明確に
 - ✦ (a)参加型アクションリサーチ、CBPR、(b)プログラム開発と評価、(c)EBPの開発、形成評価、実施・普及の方法論、(d)これらを包含する実践家・当事者参画型エンパワメント評価の方法論の重視
- 3. 高度専門職業人養成を並立したカリキュラムの再編
- 4. 総合相談支援システムの開発・整備に向けたカリキュラム編成～隣接学問領域と接合し、特徴を活かした幅広い教育内容の必要性～
- 5. 国際化に関連した教育科目・教育内容

(日本社会福祉教育学校連盟(2017). 前頁と同)

専門職大学院の教育目標・教育内容



- 教育対象者:**実務経験者を対象**とした教育が中心
- 教育の目標:社会的ニーズの変化に対応して、**新たな価値を創造し、福祉実践と福祉現場を改革する人材**を養成する
- 教育内容・方法:
 - ✦「**実践課題研究**」を中核に据えて、院生の実務に対する振り返りを支援
 - ✦演習や事例検討の中で、**実務者の「経験を使い、経験を深める」といった実践の省察・概念化**を中心に**経験学習**を深める内容とする
 - ✦上記とともに基礎知識・価値、体系的な知識・技術の学び直し、再修得を行う
- 東北福祉大学大学院でも、**通信教育部を中心に同様の取組みに関する検討**を進めている

プログラム開発と評価： 形成的評価とは

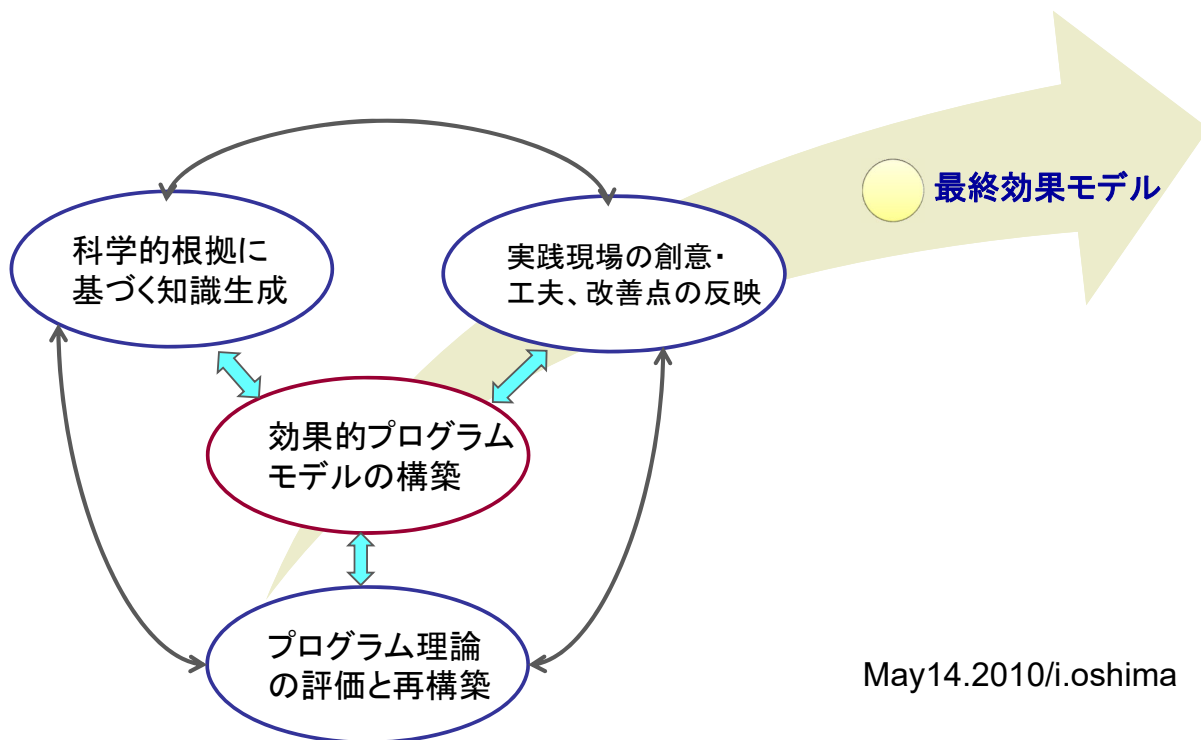
- 社会プログラムの設計・開発、形成・改善、実施・普及（実装）を行うために、評価情報を得て活用することを意図したプログラム評価の主要な1類型
- 「プログラム評価（プログラム開発と評価）」による検討結果に基づいて、アウトカム（成果）がより優れたものになるよう社会プログラムを設計・開発、形成・改善、実装することを志向する評価を指す
 - ⇒⇒EBPを含む「効果モデル」に発展することが目指される
- プログラム実施事業所の実践家や運営・管理者、さらにはサービス利用者（当事者）、その他の利害関係者が、密接に協働作業を行うのが一般であり、望ましい
 - ⇒⇒ボトムアップ評価(Chen,2015)、協働型評価の活用

実践現場で根拠のある有効な プログラムモデルを作り上げる手順



- 実践の新しいちょっとした工夫を、現場のみんなで共有し、その工夫を元により良い方法をみんなで考える
- 実践上の工夫をチームの中で共有化
 - ⇒ 援助チーム、施設や病院などより広範な人たちの間で少しずつ共有化
- 新しい援助技術・援助方法を定式化
 - ⇒ プログラム実施マニュアルとして文書化する
 - ⇒ より広範に受け入れて貰うために、科学的な方法を用いて効果や効果的な援助アプローチを検討
- 新しい援助技術・援助方法をプログラム化する
 - ⇒ 1施設の効果評価、多施設共同研究の効果評価で有効性検証
 - ⇒ 効果的なプログラム要素を明らかにする
- EBPなど効果的プログラムモデルの実施・普及に関与
 - ⇒ ボトムアップ型アプローチ (Chen, 2010)

プログラム理論・エビデンス・実践間の円環的対話による効果的プログラムモデル形成のためのアプローチ法 (CD-TEP法)



まとめ～今後の課題と展望～

- 実践現場で「学び続ける」理由の1つに良い支援を探求する思いがある
- 「モヤモヤ体験」「おやつ体験」など実践上の問いは研究上の問いに発展
- 実践の質を高める学びは、職場・職能団体・大学等が連携しつつ提供
- 「学び続ける」ことの選択は、自分自身のキャリア開発の重要な一部
- 自身のキャリアデザインにとって、大学・大学院での学びは重要な節目になる。夢や大きな方向付け、仕事に対する志に関わっている
- 社会で求められる新タイプの優れた福祉人材への期待にも対応する
- 新たな社会課題、解決困難な問題に対する課題解決を志向する、ミクロで積み上げた実践をメゾ・マクロ実践、政策に発展させる努力が重要
- 福祉系大学院の重要な使命として、福祉実践を制度・政策に架橋する教育が求められている。「プログラム開発と評価」の重要性
- 福祉系大学院では、実践の省察・概念化を中心とした経験学習と、課題解決に焦点を当てた実践研究の方法論を身につけることができる
- 自身のキャリアデザインのなかに大学院での学びを位置づけて、学びの魅力や手応えを、ぜひとも味わって頂きたい

ご清聴、ありがとうございました！



マクロ実践ソーシャルワークの
新パラダイム：
エビデンスに基づく
支援環境開発
アプローチ
～精神保健福祉への適用
例から. 有斐閣・2016年刊

TFU実学臨床研究セミナー 実践現場で「学び続けること」の意義
～実践の質を高め、問題解決力を身につけるためにできること～

専門職大学院での「学びの経験」から

小林 紀代 2021年9月23日（木・祝）

1

本日お話すること

- 1 はじめに
- 2 ソーシャルワーク実践の取組み
- 3 学び直しの動機ときっかけ
- 4 専門職大学院 進学の手続き
- 5 専門職大学院と研究大学院の比較
- 6 実践研究について
- 7 専門職大学院で学びと得たもの そして今、活かされていること
- 8 おわりに

2

1 はじめに

【現在のポジション】

宮城県社会福祉士会 理事 障害支援委員長
職場：多賀城市保健福祉部子育て支援課長



子育て応援キャラクター
すくっぴー



【ソーシャルワーカーとしての生立ち】

東北福祉大学 福祉心理学科卒業

障害児と健常児の混合キャンプボランティアリーダー

多賀城市役所入職（一般行政職） 高齢者福祉・障害児者福祉
担当

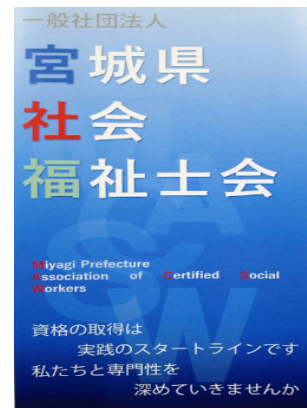
社会福祉士資格取得 ⇒宮城県社会福祉士会入会

市民課へ異動 （第1回ケアマネージャー試験合格）

育児と介護で会活動休止（約5年間）

障害者自立支援法施行に伴う制度構築と行政課題（8年6か月
間）

社会福祉士会理事及び障害支援委員長（10年6月）



3

2 ソーシャルワーク実践の取り組み

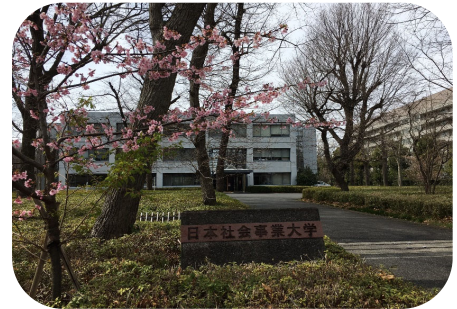
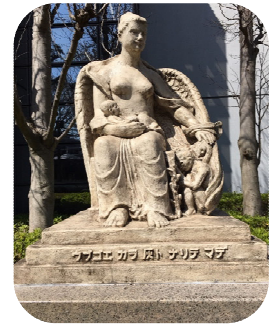
- ・宮城県社会福祉士会の仲間たちとの学びあい
- ・東日本大震災でのソーシャルワーク実践
- ・療育担当として療育システム構築と政策形成
- ・要保護児童対策協議会調整機関担当としての挫折
- ・保育担当係長として保育ソーシャルワーク実践の普及
- ・地域共生社会の実現のための地域福祉推進に及ばず



4

3 学び直しの動機ときっかけ

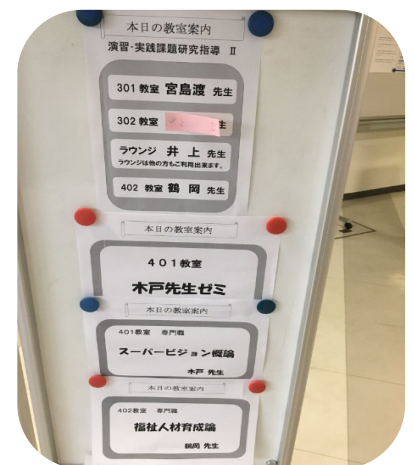
- 東北福祉大学の三浦剛教授と竹之内章代准教授の研究に関わり、実践と研究が繋がることを実感
- 行政職か、専門職か、どちらも力不足を痛感
- 望まなくても管理監督職になっていく焦り
- 育児と介護が終了して空っぽに
- これから10年余り働き続けるためには
- スタッフとして参加した宮城県社会福祉士会研修会での専門職大学院卒業生との出会い



5

4 専門職大学院 進学の手決め手

- 1年間で修士（専門職）の学位の取得が可能
- 「社会福祉のありかたを見つめ直し実践力に磨きをかけ現場を変革し続ける」という案内のフレーズ
- ソーシャルワーク、人材育成、福祉経営などの魅力的な履修科目（村木厚子先生の授業）
- 授業は木・金曜日夜間と土曜日日中
⇒自己啓発等の休業制度
- 入試に英語がない
- 家族のバックアップ
- 職場の理解と協力
- ほしかった経済的支援



全国の社会福祉リーダーを養成する
- 日本社会事業大学 専門職大学院
(jcs.ac.jp)
<https://www.jcs.ac.jp/professional/>

6

5 専門職大学院と研究大学院の比較

	専門職大学院	研究大学院
目的	実践力とマネジメント力の向上を目指す（実践家の育成に重点）	研究能力向上を目指す（研究者の育成に重点）
対象	実践現場で働きたい人	研究論文を執筆するための研究方法を学びたい人
ゴール	実践研究報告書 （直面する課題を現場視点で解決へと導く）	修士論文 （福祉の課題を科学的に究明し現場を改善する）
履修期間	1年間で修士（専門職）の学位取得（長期履修制度あり）	修士課程2年間 （参考：博士課程3年間）
進め方	ゼミを通じて実践を振り返り言語化	指導教員のもとで徹底指導
研究方法	アクションリサーチ	理論的な研究...

7

6 実践研究について

【研究テーマ】

市町村福祉行政のソーシャルワーク機能に関わる職員の人材育成～ワークプレイスラーニングの視点から～

【キーワード】

市町村福祉行政、ソーシャルワーク機能、福祉専門職、職場学習、ワークプレイスラーニング

【研究内容】

地域住民の生活向上を目標として、行政のソーシャルワークレベルアップを図る人材育成のしくみづくりを探索

【研究のみちのり】

- ①テーマ設定 ⇔ 文献や論文・実践の省察と評価
- ②授業で知識を深める ⇔ ゼミでの多様な意見
- ③調査・分析等の研究方法を学ぶ ⇒ 実施
- ④論文（実践研究報告書）の執筆と発表会



7 専門職大学院での学びと得たもの そして今、活かされていること

- ・ ソーシャルワークの基本を体系的に学び直し
- ・ 論文や文献の探し方・読み方・書き方
- ・ 研究の方法・思考するためのフレーム
- ・ 研究大学院との合同授業の体験
- ・ 多様な実践者の講義
- ・ 福祉分野とそれ以外の広い知見を持つ多彩な仲間
- ・ 価値と理論を再構築して新しい実践
- ・ コロナ禍でも学びを止めない大学院職員の強い姿勢
- ・ リモート授業ZOOMの使い方（マイICT化推進）



9

8 おわりに

【学び続けることの意義】

ソーシャルワークという専門性の特性として「人と環境」に介入

「社会生活」が実践の場 ⇒ 関連分野が広く、その一つひとつが奥深い

ソーシャルワーク実践方法や理論は日々刻々進化 ⇒ アップデートしよう！

自信はなくてもいいが、誇りとエビデンスは必要

だから学び続ける...専門職で在るために！

【これから学ぼうとする方へ】

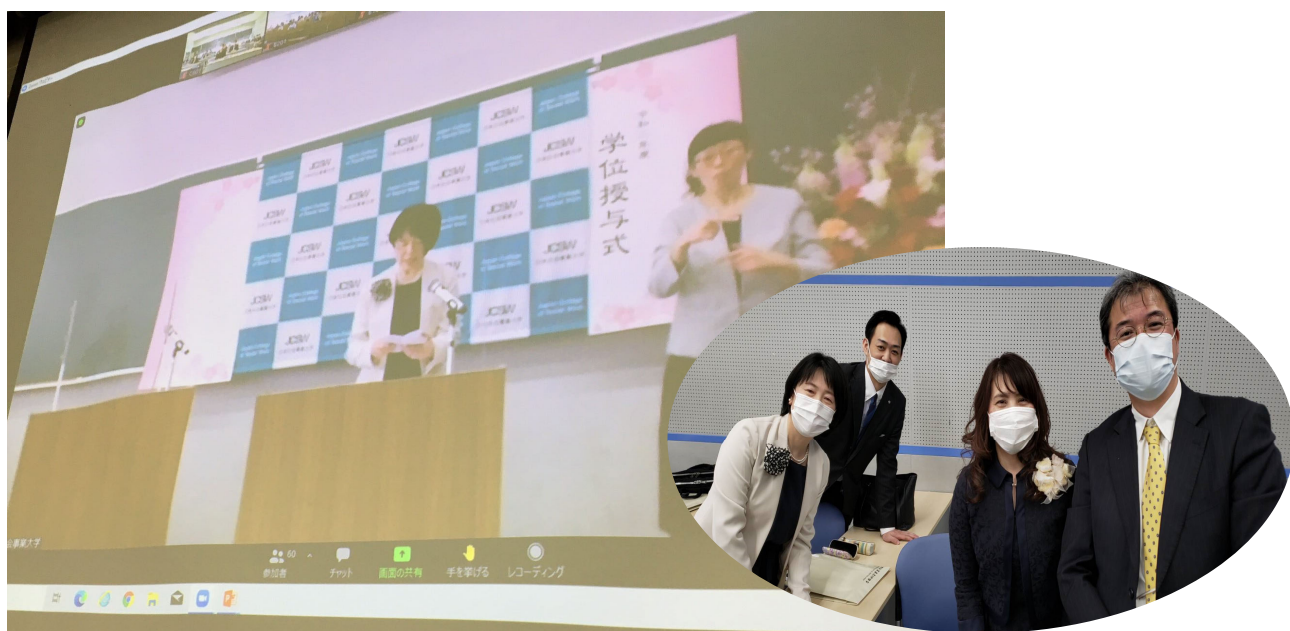
実践でのモヤモヤ、違和感、疑問、不愉快、怒り...は探求の入り口

Don't think. Feel!（ゼミの先生が紹介してくれたブルースリーの言葉）

実践のモヤモヤを感じるようになった時が学びどき

学びの機会は待っていてくれる 学びをあきらめない！

10



ご清聴ありがとうございました。

TFU 実学臨床研究セミナー 第1回セミナー

通学の研究大学院での 「学びの経験」から

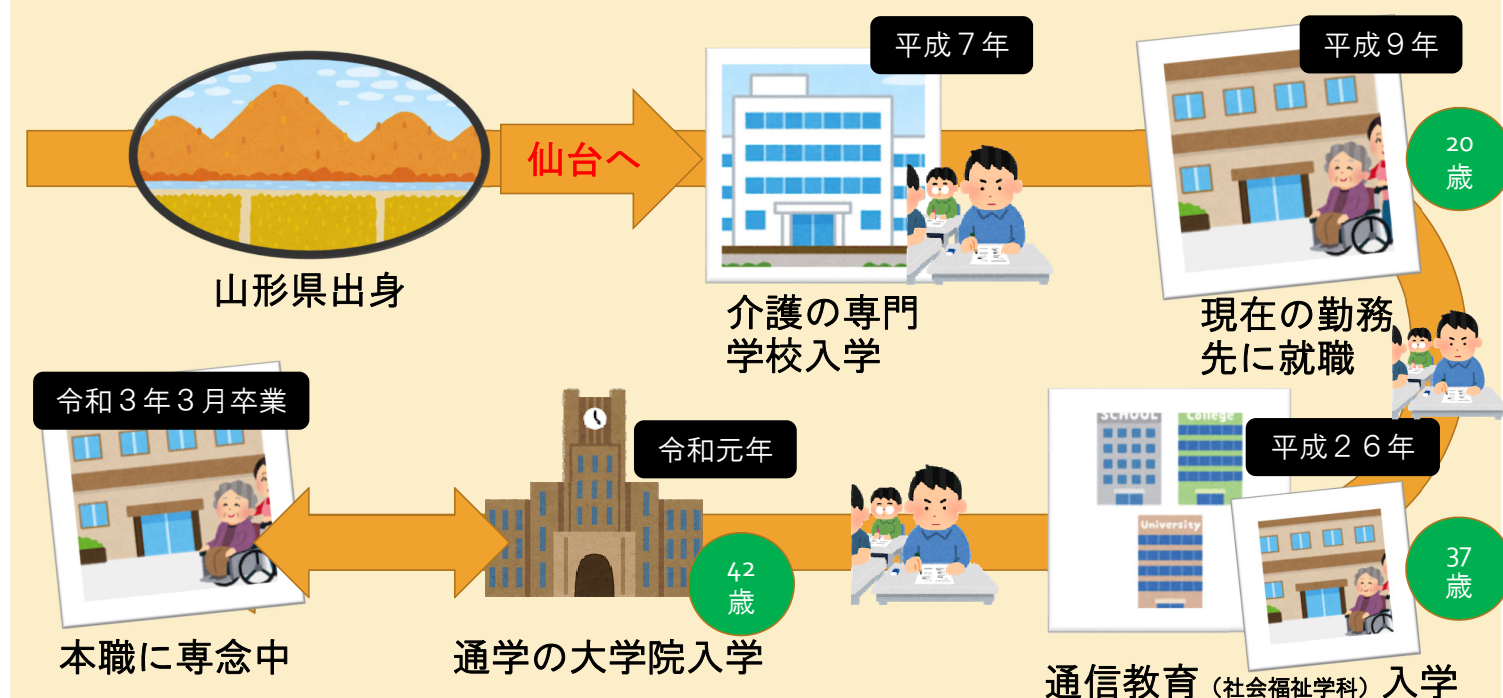
社会福祉法人東北福祉会せんだんの里 水澤 里志

プロローグ

あなたの物事の捉え方が正解だとは限らないかもしれない
あなたが強く認識している課題がそうだとは限らないかもしれない
あなたの世界観がすべてに通ずる“正しい説明”になるとは限らない

“学びなおし”をすること
あなたの知らない世界観、知ろうとしていない世界観への誘い

常にボンヤリしたきっかけを重ねて



(研究) 大学院 通学の実際

【東北福祉大学の(研究)大学院修士課程の修了要件】

大学院に2年以上
在学すること

授業科目の必修、
選択科目を合わ
せて30単位以上
を修得すること

研究指導を受け
修士課程の目的
に応じた**修士論
文等**を提出する
こと

審査及び最終試
験に**合格する
こと**

「ものすごい研究をする」というよりも、「研究テーマの妥
当性を検証できる力」を身につけ、「適切な研究方法」を体
得することを目指す

（研究）大学院 通学の実際

【1年次：平成31年4月～令和2年3月】

【授業】

週に3日前後
2時間～半日
※柔軟な調整

【授業以外】

研究室で先行研
究レビュー等

ディスカッショ
ンや簡単なレ
ポートで考えを
表現・発見する

様々な人たちと
の交流と刺激的
で不思議な風景

「教わる」という受動的な学びの場だけではなく、
「自分で学び、自分で表現する」という能動的な学びの場

（研究）大学院 通学の実際

【2年次：令和2年4月～令和3年3月】

行動計画と研究
計画を睨みなが
ら研究に取り組む

研究室等や職場、
自宅で
コツコツと
作業を継続

最低月1回は
指導教員と
意見交換
※メールもあり

令和3年1月
論文完成・・・

1年次に必要な授業を受け、2年次は調査や文献レビュー、
統計手法による分析等の研究活動に全集中

（個人のやり方にもよります）

なぜ、“学びなおし”に取り組んだのか

“モヤモヤした気持ち”
や
“疑い” “疑問”

利用者、職員、組織の経営
など、守るべきものが沢山
「何を守るべきなのか」の
バランスが不安定に

「大学院に入学
したい？」

「成長したい？」

「学びたいこと
がある？」

“モヤモヤした思い”のひとつの例

身元保証人等がいない
方が施設等の利用を断
られているという実態
は先行研究等でも明ら
かになっています。

厚生労働省からは、身
元保証人等がいないこ
とのみを理由にした
サービス提供拒否は望
ましくないと通知が出
ている。

しかし、施設等が抱え
る料金滞納や医療同意
の問題、日常生活上の
相談先の問題等を補完
する仕組みは実際どう
なの？板挟みでは？

受け入れない施設が悪いのか？縦割り制度が問題なのか？
国も社会もこの現状について関心がないのか？
この問題に伴走してくれる存在はいるのか？
自己防衛策しか手段はないのか？

モヤモヤが巡り巡って「研究テーマ」に変化

「身元保証人等不在の方に対する特別養護老人ホームの役割と取り巻く課題」
身元保証人等不在の方の受け入れ実績のある施設に焦点を当てた分析を通して

サービス利用時の契約手
続きの現状って大丈夫？

介護人材獲得難って、
ほんとうに魅力がない
からなの？

能率を上げるのに衛生
要因よりも動機付け要
因が必要ってほんと？

研究活動期間を振り返り（当初→**苦悩の連続**）

研究テーマは？
計画性が重要
適切な研究方法

皆、同じことを
言ってくる

悩んでいるうち
に時は刻々と過
ぎていく・・・

動機＜良い研究
をすること

研究方法なんて
分からない

アンケート集計
くらいの経験

仮説って？
操作的定義？
アウトライン？

言葉の意味が...

研究フィールド
の見当をつける

唯一の強み

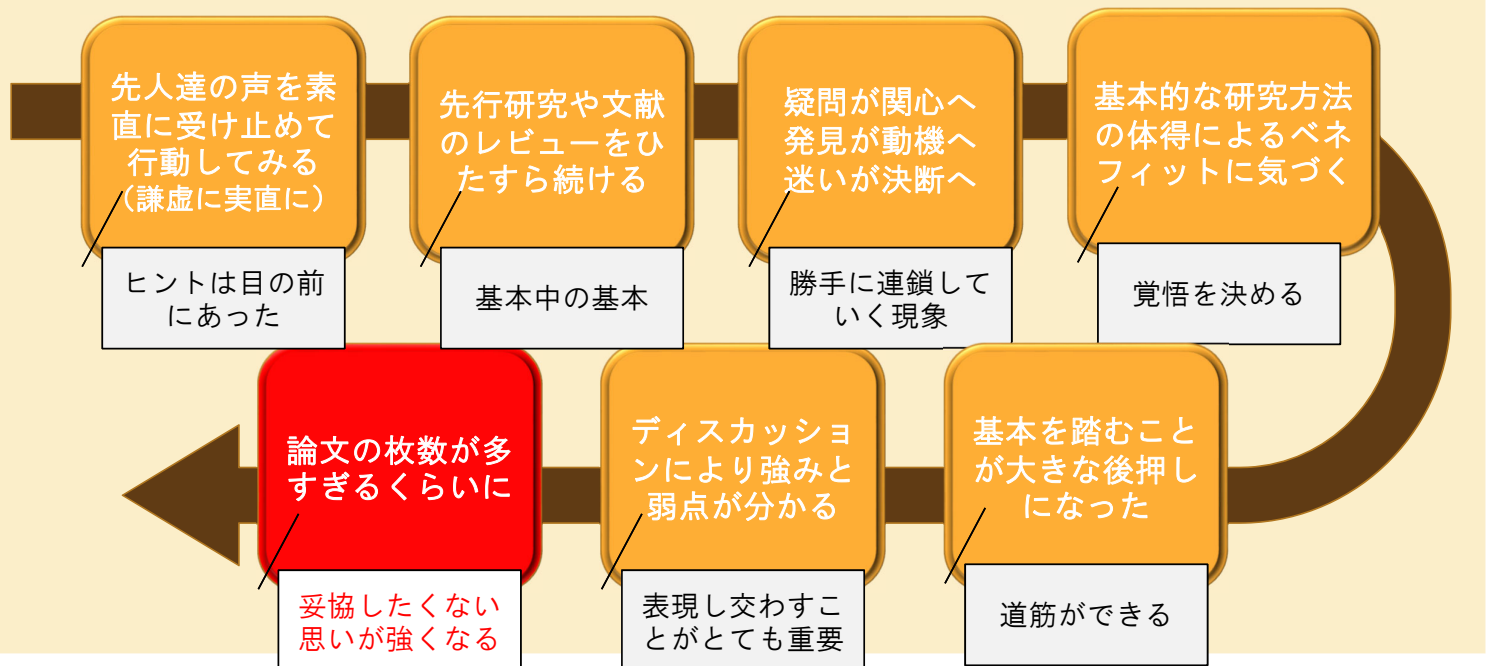
明らかにしたい
ことってなん
だっけ？

自分を見失う
研究のための研
究探しへ・・・

統計？
検定？
統計的有意差？

全く分からない
思考停止・・・

研究活動期間を振り返り（1年秋以降→克服）



「大学院」に関心のある皆さまへ

●「大学院」や「研究」言葉が放つ**威圧感**

●アドミッション・ポリシー・ディプロマ・ポリシーを感じる自分の**劣等感**

●熱い思いや明確な動機がなくと臨めなような**高いハードル**

●職場への**気兼ね**
●時間の確保の**難しさ**
●金銭的な**問題**

- ①仕事をしながら通学することに対する**職場の理解と応援**（方針を示す）
- ②公休以外の**通学の時間は勤務時間とみなす扱い**（職務専念義務を免除）
- ③授業料の**一部援助**
- ④**過度な要求を課さず**、職員を信じて、**ゆるやかに動機を待つ**

できる環境の中、
始めていくため

ており、
分が明らか
て表現す

なくて
、自分
、それが
なっていく。
も、後から

“調査・研究”により得られた“結果・学び”

「受け入れと「受託」の設定」を

「受け入れと「受託」の設定」をポートしているが・

準備万端で受け入れることは難しくても、解決策の現状を悪者にせず、社会福祉法人としての使命を持ちつつ、関係する機関に**頼り**、解決できなくても課題の共有を通じて、この社会的課題に**自分たちが**どのように関係していくべきなのかを多くの人たちと共有することが重要。

使命感や積極性があるか

りか、
結果、
生まれ
調査で

施設も
制度
要望
うこと

得られた“学び”がどのように活かされているか

知ったことのうち、自分にもっとも腑に落ちたことを**活用してみる**

【楽しみ】

疑問や疑いに対して、**統計手法を用いた調査と分析の活用**

疑問や疑いを適切な文献や査読付き論文等で**調べる**

【興味】

より事実や正確な情報に近づこうとすること

自分の世界観を通して見るのではなく、**相手の世界観を眺めようとする**

【余裕？】

“説明”ではなく、**“問い”を用いること**

く、
**相手を変える為の手法の体得ではなく、
相手を知ろうとする価値の収得**

“学び続けること”の意義

対人援助職者は多様な生活課題を抱えている人々に日々向き合っている

知識や技術、態度の成長や対応力、専門性の向上が求められている

複雑化する支援の中で、抱える問題を解決するための学びを目指す故に、意図もせずに、当事者を自分のコントロール下に置こうとするための学びに変化することはないか？

自分の世界観ありきではなく、相手の世界観に渡るための方法を見つけるきっかけを得るために学び続ける（共感的理解と技能の融合）

ご静聴ありがとうございました

あなたの物事の捉え方が正解だとは限らないかもしれない
あなたが強く認識している課題がそうだとはいえないかもしれない
あなたの世界観がすべてに通ずる“正しい説明”になるとは限らない

“学びなおし”をすること
あなたの知らない世界観、知ろうとしていない世界観への誘い

【資料①】

福祉等関係専門職の生涯キャリア形成を目指す

T F U

実学臨床研究

セ ミ ナ ー

第2回

施設における虐待防止を考える ～ より良い支援を育むみんなの課題 ～



◆ 日時 2021 年 10 月 29 日（金）18 時 30 分～20 時 00 分

◆ 場所 Zoom オンライン（Zoom 情報後日送付）

※ コロナウイルス感染症対策を講じ、すべてオンラインで開催します

◆ プログラム

◎ 講演テーマ： 施設における虐待防止を考える
～より良い支援を育むみんなの課題～

講師 竹之内 章代 氏（東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科 准教授）

◎ 情報提供：60 分／意見交換：30 分

◆ 参加方法 無料 Web 申し込み（詳細は後日ご案内）

◆ 第2回 セミナー趣旨

高齢者や障害者に対する虐待防止法が施行されて 10 年以上が経過していますが、未だ虐待がなくならないのが現状です。特に、施設や事業所など福祉サービス提供者側の虐待は、職員の知識や技術の不足、倫理観の欠如、支援施設内の体制の課題などの職員個人だけでなく、支援施設全体で利用者中心のより良い支援を行おうとする組織的な取組とも密接に関わる皆さんに共通する重要な課題です。

そこで、今回のセミナーでは、より良い支援を育む基盤となる、虐待防止のための組織的な取組の必要性和、防止のための取組を皆さん方といっしょに議論していきたいと思ひます。

※裏面もご覧ください

第3回セミナー 予定

利用者中心の小規模施設ケア

～ より良いケアと経営の狭間で導入と運営を考える ～

日時 2021 年 11 月 25 日 (木) 19 時～20 時 30 分

場所 Zoom オンライン

講師 高橋 誠一 氏 (東北福祉大学総合マネジメント学部 教授)

◆ これから(2022 年 1 月まで)のスケジュール

※テーマは変更される場合もございます

回	月	テーマ / 講師
1	9/23 (本日)	実践現場で「学び続けること」の意義 ～ 実践の質を高め、問題解決力を身につけるためにできること ～ 大島 巖 氏 (東北福祉大学大学院担当副学長・教授) 小林 紀代 氏 (多賀城市保健福祉部子育て支援課／宮城県社会福祉士会障害支援委員長) 水澤 里志 氏 (社会福祉法人東北福祉会せんだんの里施設長)
2	10/29	施設における虐待防止を考える ～ より良い支援を育むみんなの課題 ～ 竹之内 章代 氏 (東北福祉大学総合福祉学部 准教授)
3	11/25	利用者中心の小規模施設ケア ～ より良いケアと経営の狭間で導入と運営を考える ～ 高橋 誠一 氏 (東北福祉大学総合マネジメント学部 教授)
4	12/17 (予定)	福祉施設利用者の心理と行動 ～ 「てこずり行動」への理解・対応 ～ 渡部 純夫 氏 (東北福祉大学総合福祉学部 教授)
5	2022 年 1 月(予定)	認知症スティグマの低減に向けたプログラムの実施と効果 石附 敬 氏 (東北福祉大学総合福祉学部 准教授)

◆ 【月例】TFU 実学臨床研究セミナー開設の趣旨

こんにち家族や地域社会が変化し多様化する中で、人々の幸せやより豊かな生活を願い、複雑化する支援ニーズに向き合う対人援助の専門職の皆さんは、絶えず新しい知識を身に付け、成長し、新しく生じる問題に対応する力量を身に付けることが求められています。

「行学一如」を建学の精神とする東北福祉大学(TFU)は、実践の質を継続して高め、問題解決力を身につけるための学びの機会を提供する取組み、月例「実学臨床研究セミナー」を開催することにいたしました。

福祉現場など実践の場のイマを見つめ、これから求められる対人専門職人材の育成や成長、キャリア形成を考える機会になれば幸いです。

【企画・お問い合わせ】



東北福祉大学 TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会

Tel 022-717-3359 Fax 022-301-1293 E-mail kenkyu-seminar@tfu-mail.tfu.ac.jp

※TEL 及び FAX は同事務局を担う実学臨床教育推進室につながります(平日 8:30～17:30 のみ 土日・祝日不在)

TFU実学臨床研究セミナー実行委員会名簿

2021年8月

連番	お名前	所属等
学外委員		
1	中里仁様	社会福祉法人東北福祉会・せんだんの杜
2	野田毅様	社会福祉法人東北福祉会・本部事務局/せんだんの館
3	舟越正博様	社会福祉法人東北福祉会・せんだんの里
4	土井勝幸様	医療法人社団東北福祉会・せんだんの丘
6	加藤誠様	医療法人社団東北福祉会・せんだんの丘
7	大橋雅啓様	東日本国際大学／全国・宮城県・福島県精神保健福祉士協会
8	菊地知憲様	総合南東北病院／宮城県医療ソーシャルワーカー協会
9	小林紀代様	多賀城市保健福祉部子育て支援課／宮城県社会福祉士会
学内委員		
10	(委員長) 阿部一彦	東北福祉大学総合福祉学部
11	阿部利江	東北福祉大学総合福祉学部
12	石附敬	東北福祉大学総合福祉学部
13	大島巖	東北福祉大学総合福祉学部
14	佐藤俊人	東北福祉大学総合福祉学部
15	清水冬樹	東北福祉大学総合福祉学部
16	高橋誠一	東北福祉大学総合マネジメント学部
17	竹之内章代	東北福祉大学総合福祉学部
18	田中尚	東北福祉大学総合福祉学部
19	芳賀恭司	東北福祉大学総合福祉学部
20	三浦剛	東北福祉大学総合福祉学部
21	吉田孝	東北福祉大学教務部教務課
22	菅野陽子	東北福祉大学通信教育事務部
23	事務局 (山本美貴子)	東北福祉大学実学臨床推進室
24	広報担当 (梅津正輝)	東北福祉大学総務部PR課

第1回 TFU 実学臨床研究セミナー 資料集
実践現場で「学び続けること」の意義
～実践の質を高め、問題解決力を身につけるためにできること～

発行日 2021 年 9 月 23 日

主 催 TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会

編集・発行 TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会事務局

電話：022-717-3359 Fax：022-301-1293

E-mail kenkyu-seminar@tfu-mail.tfu.ac.jp
